

はじめまして、チェブラーシカ

ロシアのパペット (人形)・アニメーション、
『チェブラーシカ』について

大石和久

1969年から1974年にかけて、旧ソ連で制作されたパペット・アニメーション・シリーズ『チェブラーシカ』が2001年に日本で上映され、話題を呼んでいる。キャラクターたちのかわいらしさから(イラスト参照)、グッズの売れ行きも好調らしい。ところで、ロシアからやって来たチェブラーシカが日本社会で消耗品として消費し尽くされ、忘れ去られる危険性がないとも言えない——モンチッチ、なめ猫等のように(ちょっと古いか)。そうなる前に、チェブラーシカ、そしてその友達、ワニのゲーナを紹介しておきたい。

チェブラーシカはアフリカからたまたまロシアにやってきた(オレンジの木箱で眠っていたところをロシアに運ばれてしまった)、小さくて(たぶん子供)、とてもキュートな動物だ。特徴は耳がとても大きいところ。木箱の中にチェブを発見した果物屋のおじさんは、チェブを動物園へと連れていく。でも、動物園は引き取ってくれない。学問的に分類不可能な動物だというのだ。チェブは正体不明(こぐまでも、こざるでもない)、どんな分類にも属さない。動物園を追い出されたチェブはnowhere-man(=ドコモノ居場所ノナイモノ)だ。

どこにも行く当てのないチェブは、電話ボックスの中で、回っているコマをかなしそうに見つめる。チェブにとってたしかなのは、自分がnow-here(=イマココ)にいる、ということだけ。そんなチェブに友達(というより父親的存在なのだが)ができる。それがワニのゲーナだ。

ゲーナは、ワニなのに、動物園で「ワニ」の役を演じて働いている。実際、ゲーナは動物園で「ワ



チェブラーシカ(左)とゲーナ(右) 山下ちはぎ画

- p.1-2. はじめまして、チェブラーシカ ■ p.3. 刑法学あれこれ③
- p.4. 浮世絵展(1階自由閲覧室) ■ p.5. レファレンス・サービス係から
- p.6. 韓国を知るための本③ ■ p.7. 書評 ■ p.8. 日本語と韓国語の類似点

ニ」を演じた後、しっかり動物園から自分の家に帰る。動物園では「ワニ」を演じ、人気者となっても、その役を終えたとたん、あるさみしさがゲーナを襲う。ゲーナも実は nowhere-man。居場所があるのは、ゲーナ自身というよりも、彼の演じる「ワニ」の方なのだから。ゲーナのさみしさは、チェブの居場所のないかなしみとはちょっと違って、居場所を手に入れるために自分を演じなければならない者のさみしさだ。ゲーナは蝶ネクタイとジャケットをびしっときめた紳士。ゲーナのさみしさは〈大人〉のさみしさなのだろう。そして、ある役柄をまだ演じられない、だから正体不明で、愛らしいチェブのような生き物をひとは〈子供〉と呼ぶのだろう。〈演じる〉ということはつねに自分以外の他者を演じるということならば、すでにワニであるにもかかわらず、「ワニ」を演じることなんてできるのだろうか。こんな疑問がゲーナのなかであたまをもたげる。でも、この世で生きていくことがある役割を演じることである以上、演じている当の自分自身は nowhere-man であるしかないことをゲーナは覚悟している。そして、そ

のさみしさを痛切に感じ取っている。けれども、いや、だからこそ、ゲーナは、nowhere(ドコデモナイ)とは now-here(イマココ)の別名であることもまた知っているのだ。どのような役であろうと——たとえ、それが自分であったとしても——、自分自身がそれを演じる限り、演技手としての自分自身はたしかに now-here にいる。それで、ゲーナは now-here に生きていることの喜びをアコーディオンにのせて歌うのだ。「みんな知らない／今日は天気が悪いのに／わしがこんなに陽気なわけを」。そう、今日はゲーナがこの世に舞い降りてきた「誕生日」である。私は、チェブがゲーナのような大人になることを願う。

生身の人間とは異なり、人形は混じり気のない純粋な魂の器たりうる。人形は、特権的にそのような魂をもつことを許されている。決して人間では表現できないだろう、この二匹の主人公たちの純粋なかなしみ、さみしさを、そしてよろこびが、このパペット・アニメーションの主調音として鳴り響いている。

(おおいし かずひさ／人文学部講師)

このエッセイに関する図書館の本紹介

演じること、nowhere と now-here について、

古東哲明『〈在る〉ことの不思議』、111/Ko94

この本の中では演技する〈猿〉のかなしみについて書かれている。ここで言う〈猿〉とは、社会の中で生きている以上、ある役割から決して逃れられない——もちろん、聖職者であろうと——人間存在のメタファーである。

『チェブラーシカ』のビデオ・DVDはまだ発売されていない(近々に発売予定らしい)。が、図書館にはロシア・アニメーション界の巨匠ユーリ・ノルシュテインのLDが所蔵されている。

ユーリ・ノルシュテイン『話の話』 AV726.1/H28

ノルシュテインは、この『チェブラーシカ』シリーズの監督ロマン・カチャーノフの弟子であった。ちなみに、このシリーズの二作目でゲーナの動きを担当しているのが、修行時代のノルシュテインである(ゲーナにあの歌を歌わせたのは、彼なのである)。

※残念ながら、チェブラーシカ関係の本は、まだ図書館には収められていない。チェブラーシカの本としては、この映画の原作本、ロシアの童話作家ウスペンスキー著『チェブラーシカとなかまたち』(本の場合、日本語表記がチェブラーシカではなく、チュブラーシカとなっている)が新読書社から出版されている。また、ブチグラパブリッシング社刊『チェブラーシカ』は、映画の場面がたくさん掲載された楽しい本となっている。人形に興味ある人がいるかもしれない。そんな人には、これも図書館には所蔵されてなくて申し訳ないのだけれど、人形について美学的に考察した、増渕宗一著、勁草書房刊『人形と情念』をお勧めしたい。

刑 法 学 あ れ こ れ

3

権威的刑法から討議的刑法へ ①

吉 田 敏 雄

You think, I am a dreamer.

But I think, someday you will join us. (John Lennon)

ヨーロッパ近代刑法学は旧体制 (ancien regime) の恣意的、専断的刑法への反撃から始まった。イタリアのベッカリーアの著「犯罪と刑罰」は今日でもその意義を失っていない不朽の名著である(少なくとも、法学部生の必読書)。爾来、啓蒙思想を滋養源として、刑法学は発展したのであるが、この自由主義的刑法学説(旧古典派)は必ずしも支配的とならなかった。その後の啓蒙刑法学には、その基本思想において対立が生じた。その一つは、新古典派と呼ばれる学派で、意思自由、個人道義的責任、応報刑を主張した。しかしこの基本思想に立脚する刑法は産業の発展に伴う犯罪の激増に対処するには無力であるとして批判された。そこで現れたのが近代派と呼ばれる学派で、決定論、社会的責任、特別予防刑(改善の必要のない者には威嚇刑、改善の可能な者には社会復帰刑、改善の見込みのない者には終身拘禁刑)を主張した。この両派の対立の中から、その折衷としての改善・保安処分(主として責任無能力者、危険な犯罪者が対象)と刑罰のいわゆる二元制度が刑事立法化されていくことになる。

我が国には、明治維新時にこの二つの思想がほぼ同時に流れ込んできた。現行刑法は古典派思想を基盤にしながら、近代学派の思想も一定程度取り入れた。しかし我が国で近代学派の思想が威力を発揮したのはむしろ「思想犯」取り締まり法規においてであった。戦前、旧古典派の影響を受けた京都帝国大学教授滝川幸辰は、その思想が自由主義的にすぎるということで大学を去らねばならなかった(「滝川事件」。同教授がモデルといわれる高橋和巳著「悲の器」が面白い)。

新古典派も近代派も、刑法が国民に対する関係で、権威的、支配的道具と理解する点では一致していた。刑法は、刑罰という手段を用いて、国民

の勝手気ままな行動を威圧的に制限する。我が国では、それが顕著に現れた。刑法は、天皇制イデオロギーを基礎とする道徳的価値判断を「臣民」(「大日本帝国憲法」の用いる概念)に押しつける外在的規範だったのである。

近時、世界の刑法、刑事政策は大きな変動期にある。犯罪被害者の救済ということが、ここ20年大きく取り上げられ、刑事立法に反映されている。しかしそこには二つの対立する流れがある。その一つは、もっぱら被害者救済指向で、被害者の物質的、精神的救済を重視する「被害者救済運動」である。欧米でも、それは、交通事故(犯罪)被害者、強姦犯罪被害者のおかれた悲惨な状況の救済から始まった。しかしこの運動が、従来の刑法に反映されるべきだとされると、「厳罰を、もっと厳罰を」という人々の素朴な、それだけに強力な応報欲求が満足されるべきだということに繋がる。現にアメリカでは、この流れが奔流となっている。ちなみに、アメリカのブッシュ大統領が知事を務めていたテキサス州はアメリカで最高の死刑執行数を誇ることで有名である。我が国でも、有力な刑法学者、報道機関を含めて、この大衆迎合的立場に組み入る者が多く、近時の刑事立法も明らかにこれに組み入る。

いま一つの流れは、「恢復的(修復的)司法」である。これは、犯罪被害者、犯罪者そして地域共同社会の損害の修復に力点を置くのである。犯罪は一つの社会現象であり、国の刑法規範違反ばかりでなく、社会的紛争という性格を持つ。従って、犯罪の処理は、犯罪に直接関わった人々の間で、社会の人々の助けを借りて解決されるべきであることを強調する。推察されるように、この思想は「頑迷な」刑法学者からは来なかった。(つづく)

(よしだ としお/法学部教授)



浮世絵展

日時：平成13年11月20日～14年2月28日
場所：北海学園大学附属図書館1階自由閲覧室

〈展示資料〉

1. 吉原恋の道引 (近世日本風俗絵本集成)：世界浮世絵セレクション・完全復刻版
菱川師宣／臨川書店 1979／12 出版 1冊 27cm NDC:721.8 Ki46
2. 風流四方屏風 (近世日本風俗絵本集成)：世界浮世絵セレクション・完全復刻版
鳥居清信／臨川書店 1979／06 出版 400p NDC:721.8 Ki46
3. 百人女郎品定 (近世日本風俗絵本集成)：世界浮世絵セレクション・完全復刻版
西川祐信／臨川書店 1979／03 出版 2冊 27cm NDC:721.8 Ki46
4. 翠笠亭戯画譜 (近世日本風俗絵本集成)：世界浮世絵セレクション・完全復刻版
翠笠亭／臨川書店 1981／01 出版 19,2丁 26cm NDC:721.8 Ki46
5. 四季交加 (近世日本風俗絵本集成)：世界浮世絵セレクション・完全復刻版
北尾重政／山東京伝／臨川書店 1979／06 出版 400p NDC:721.8 Ki46
6. 彩画職人部類 (近世日本風俗絵本集成)：世界浮世絵セレクション・完全復刻版
橘岷江／臨川書店 1980／03 出版 NDC:721.8 Ki46
7. 絵本世都之時 (近世日本風俗絵本集成)：世界浮世絵セレクション・完全復刻版
北尾重政／臨川書店 1980／07 出版 600p NDC:721.8 Ki46
8. 絵本大和童 (近世日本風俗絵本集成)：世界浮世絵セレクション・完全復刻版
西川祐信／臨川書店 1980／03 出版 600p NDC:721.8 Ki46
9. 絵本物見岡 (近世日本風俗絵本集成)：世界浮世絵セレクション・完全復刻版
鳥居清長／臨川書店 1980／07 出版 400p NDC:721.8 Ki46
10. 絵本常盤草 (近世日本風俗絵本集成)：世界浮世絵セレクション・完全復刻版
西川祐信／臨川書店 1979／09 出版 600p NDC:721.8 Ki46
11. 絵本江戸爵 (近世日本風俗絵本集成)：世界浮世絵セレクション・完全復刻版
喜多川歌麿／臨川書店 1979／04 出版 600p NDC:721.8 Ki46
12. 絵本時世粧 (近世日本風俗絵本集成)：世界浮世絵セレクション・完全復刻版
歌川豊国／臨川書店 1979／03 出版 2冊 22cm NDC:721.8 Ki46
13. 絵本浅香山 (近世日本風俗絵本集成)：世界浮世絵セレクション・完全復刻版
西川祐信／臨川書店 1979／04 出版 12丁 27cm NDC:721.8 Ki46

レファレンス・サービス係から 利用者の皆さんへお願い

レファレンス申込るときは、まず探している資料が本学に所蔵しているかどうか調べてください。

所蔵を調べるには

公開検索 (OPAC)
カード目録
北海学園大学逐次刊物目録
学術雑誌総合目録

で検索します。
使い方がわからないときは係員に
お尋ね下さい。

公開検索 OPAC: Open Catalog Access Catalog (2F PC コーナー)

検索画面に書名の一部、著者名等を入力すると本学の所蔵、貸出可能か否か、請求記号、配架場所がわかります。しかし本図書館はまだ遡及途中のためすべてのデータがOPACに入力されていません。カード目録と併用してください。所蔵の確認ができれば配架場所が開架書庫なら直接利用して下さい。閉架書庫であればカウンターに申し出てください。

パソコンをお持ちでインターネットに接続されている方はNACSIS Webcatで探している資料について全国の所蔵機関がわかります(3F PC コーナーでも検索できます)市内の図書館に所蔵している場合は原則として直接来館利用をお願いしております。利用の際は“利用願”が必要です。レファレンス・カウンターで発行します。

国立情報学研究所目録所在サービス
URL:<http://webcat.nii.ac.jp/>

典拠資料があればお持ち下さい

典拠 (出典)

典拠とは探している資料をどこで知ったかの情報です。この情報が文献調査の際に大きな手がかりとなり調査をスムーズに進めることができます。探している資料が参考文献、引用文献として載っている箇所のコピー、または現物をお持ちください。手書きの典拠では不正確になりがちですのでよろしくお願いいたします。

どうぞご協力よろしくお願いいたします。

韓国を知るための本

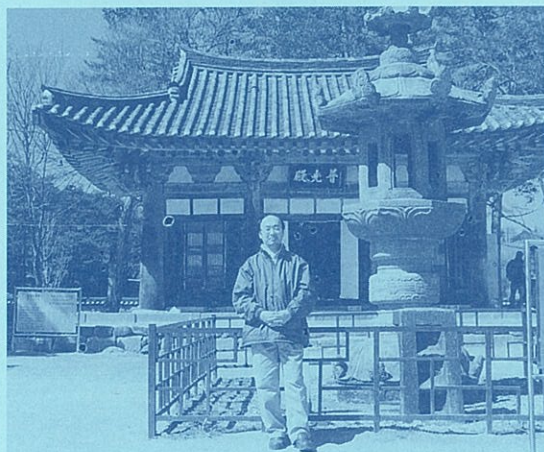
3 社会

水野邦彦

韓国に派遣された新聞記者や企業の社員たち、さらには韓国人と結婚して韓国に住む女性たちが自分の見聞をもとに韓国社会をかたった本が数多く出版されている。たしかに韓国にはそこに書かれたような一面があるだろうし、これらの本を読むことにもそれなりの意味があるだろう。けれども基本的にそれらは一個人が経験した範囲での韓国社会像にすぎない。読者はそれだけが韓国の姿だと思いこまないように留意しなければならないだろう。

目にはみえない〈社会〉を把握し分析するのは社会科学の仕事であるし、韓国社会を知ろうとするさいにも、たんなる滞在記より多少とも社会科学の色彩のある本のほうが役に立ちそうである。ただ社会科学はふつう経済や政治などの個別分野として論じられるので、社会の全体像をとらえるには、いくつかの分野にまたがって本を読む必要があるだろう。ここでも便宜的に通常の区分にしたがうが、ただし専門家向けに書かれた学術書はさげ、ゆっくり読めば誰にでもわかるような本、そして韓国社会の全体像の把握に結びつくような本を中心にあげることにしたい。

①滝沢秀樹『韓国社会の転換』御茶の水書房、1988



全羅道の実相寺にて

年 [開架 302.21/Ta73]

②滝沢秀樹『韓国の経済発展と社会構造』御茶の水書房、1992年 [開架：332.21/Ta73]

③崔章集『韓国現代政治の条件』法政大学出版社、1999年 [開架 312.21/Sa17]

④崔章集『現代韓国の政治変動』木鐸社、1997年 [開架 312.21/SAI]

⑤森山茂徳『現代韓国政治』東京大学出版会、1998年 [開発研究所]

⑥月刊「社会評論」編集部『韓国社会論争』社会評論社、1992年 [302.21/Ka56]

⑦池明観『韓国民主化への道』岩波新書、1995年 [開架 081/I95]

⑧趙延來『太白山脈』ホーム社、1999-2000年 [開架 929.13/CHO]

まず経済の分野でいうと①と②があげられる。これらは狭義の経済学にとどまらず、社会構造の分析に力がそそがれており、しかも韓国社会を民衆の視点でとらえようとする姿勢が出色である。さらに、すでに絶版で本図書館にもないが、滝沢氏の『ソウル讃歌』（田畑書店、のち集英社文庫）も読みやすいわりには韓国社会を意外に深いところでとらえている。政治学者の本では③④がすぐれているが、ひととおり韓国現代史をふまえないと理解しにくいかもしれない。⑤は標準的な好著。⑥は、階級論・財閥・農業・宗教・教育・文学・芸術などの各分野について韓国の研究家が論点を整理したもので、韓国社会の概観に有益であるが、いくらか予備知識が必要であり、また少々古くなってしまった。⑦は昨年本学で講演して下さった著者による韓国現代史概説で、韓国社会をわかりやすく描いている。⑧は解放後韓国の闘争を描いた全10巻のすさまじい小説。春休みにお読みになってはいかがだろうか。

ちなみに左の写真は、⑧の舞台となった全羅道の山のふもとにある寺で撮ったものである。

(みずのくにひこ/経済学部教授)

「橋本治が大辞林を使う」

橋本治著

三省堂

「大辞林」がどんな辞書なのか？

なぜ著者が「大辞林」を自分にぴったりの辞書と思うのか？

どんな時に、何のために辞書を引くのか？

日本語の成り立ち、正しい日本語と美しい日本語の違い。

明治以後の日本語教育の問題点 などなど……この小さな一冊に著者の言葉に対する想いがびっしり詰まっています。

独自の言葉や、文章ってどんなことでしょうか？

「話をする」は「人と話をする」のであって「相手」という他人がいなければ、何を言っても、独り言です。

自分の話を聞くのが、「他人」という距離をもった相手だということに気づいていない人が大勢います。携帯電話で一方的にメールを出すだけで話し相手がいると思っ込んでいようにも思いません。

言葉話すことも、文章を書くことも相手に自分を理解してもらうためだと思います。そのために自分らしい話し言葉や、文章が見つけれたら素敵だと思います。そしてその為の自分にピッタリの辞書を私も持てたらと思います。著者は辞書についてこのように書いています。

辞書というものが、「言葉の正しさを計る基準」であることは確かです。しかし、辞書というものは、「すでに存在している文字の列を読み解くためのもの」ではないのです。ただ宙に漂っているだけの「音」を、「明確な文字の列」に置き換えるための道具でもあるのです。道具は道具として、使いやすいものであってほしい。重要なのは「使いやすい」ということで、「権威」は別にいらないのです。権威に頼らない自分だけの使いやすい辞書、いつか見つけることができるでしょうか？

(M.T.)

『銀の匙』

中 勘助

岩波文庫(緑51-1)

家の本棚で見つけた一冊の古い本。

いつか読んでみようと思いつつそのままになっていた。

休んで暇を持て余していたある日、他の本に挟まれて窮屈そうにしているのが目に入り取り出して読んでみた。

特別難しい事が書いてある訳ではない。主人公の私が大人になった今でも大切に持っている小さな頃の宝物が入った小箱。その中でも特にお気に入りの小さな銀のスプーン。それを手に入れたいきさつから話は始まる。病弱な子供だった私にそのスプーンで薬を飲ませてかわいがってくれた叔母さん、その後の少年時代の事が書かれている。

誰でも子供の頃には似たような自分だけの宝の箱を持っていたのではないだろうか。人から見ればガラクタのような物でも自分に取ってはかけがえのない宝物だった。

この作品には不思議な程、鮮やかに子供の世界が描かれている。

初めてこの本を読み終わった後、何年も仕舞ったままになっていた自分の箱を探していた。

2週間程前、またこの本を読んでみて驚いた。

今までは同じ本を繰り返し読んで最初にした程の感動が得られないのが普通だと思っていた。でも、この本は違う。読むたびに常に新しい感動を与えてくれる。いつ読んでも初めて読んだ時のような新鮮な気持ちにしてくれる。こんな本に出会ったのは、始めてだった。推理物が好きで1度読むと種が解かってしまい2度3度と繰り返し読むことの少ない私にとってこの発見はとても驚きだった。

かの夏目漱石が未曾有の秀作として絶賛したのがわかるような気がする。

今度読む時にはどんな表情を見せてくれるのだろうか。今からとても楽しみである。

少し茶色に変色した古い本は、今日も私の本棚の隅で輝いている。

(N.A.)

日本語と韓国語の類似点

李 英 愛

日本語と韓国語は、中国の漢字の影響を強く受けていた昔から相互関連性をもっており、漢字の音読みの発音や語順といった文法がよく似ている。日本と韓国は漢字文化圏に属しており、漢字の読み方はそれぞれ一連の規則性をもっている。韓国語はハングルが中心になっているが、ハングルだけでは意味が不明確な場合は漢字を使っており、いくつかの例外を除くと、一つの漢字には一つの読み方(音読み)しかない。簡単(간단[kand-an])や家具(가구[Kagu])のように、日本語と韓国語の発音が一致する言葉もある。

韓国では、明治時代の日本から入ってきた「哲学・心理学・美術・絶対・郵便・演説」などといった言葉が、そのまま韓国語読みで使われている。「建物」も日本から入ってきた言葉であるが、訓読みがない韓国語では건물[kǎnmul]（「建物」を「けんもつ」と読むような発音）と読み、日本語がそ

のまま残って韓国語化した言葉といえる。韓国語の70%は漢字語であり、日本語の名残りも少ないのである。

韓国のコンビニでは日本の三角おにぎりが並んでおり、デパートの食品売り場でもお寿司が売られている。インスタントラーメンしかなかった韓国に日本のラーメン店が上陸するなど、最近の韓国では日本の食文化が違和感なく入ってきており、ソウルの中心部には「さっぽろ」という日本食の店もある。岩井俊二監督の映画「love letter」が韓国で大ヒットしたため、札幌や小樽を舞台にしたミュージックビデオやテレビコマーシャルなどが多数製作されてよい反応を得ているため、北海道を訪れる韓国人観光客も多くなっている。

(い よん え/大学院文学研究科日本文化専攻博士(後期)課程)

編／集／後／記

*もうすぐ春ですね。卒業を控えた皆さんは希望で胸いっぱいだと思います。社会人になっても笑顔で頑張ってください。

*鑑賞用のDVDソフト及びビデオソフトなどが3階書架にあるのをご存知ですか？

今年はアカデミー賞作品、宮崎駿作品、ディズニーアニメ作品、ハリウッド作品などを中心に取り揃えました。

どなたでもご覧頂けますので、是非ご利用下さい。

北海学園大学附属図書館報 図書館だより Vol.23 No.3 (通巻159号)

本館 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 工学部図書室 〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目
☎(011)841-1161 本館内線 270-275・279・129 工学部内線 813・814 印刷所：㈱アイワード